



ハイライトよねやま 128

1 寄付金速報 — 米山月間へご協力ください —

9月までの寄付金は前年同期と比べて4.0%増、約1,380万円の増加となりました。普通寄付金が2.3%減、特別寄付金が13.7%増と、これまで比較的好調に推移していましたが、米山月間である10月前半の寄付実績はここ数年の中で最も低く、厳しい出足となっています。

10月から12月までの3カ月間は、1年間の特別寄付金の約半分をご送金いただいている重要な時期です。各クラブにお届けしている月間用資料をご活用いただき、当会事業への理解を少しでも深めていただくよう、広報活動へのご協力をよろしく申し上げます。

2 GETSで米山記念奨学事業を紹介

9月8日に東京都内で開催されたガバナーエレクト研修セミナーで、板橋敏雄理事長と坂下事務局長が各20分間、米山記念奨学事業の現況説明を行いました。また、配偶者プログラムでは、米山学友の駿^{スルタニ}溪トロペカイさん(アフガニスタン/1981-83/小山RC・土浦RC)と楊錦華さん(中国/2002-05/東京日本橋RC)がスピーチを行いました。



駿溪さん(左)と楊さん

『ロータリーの友』6月号の“よねやまだより”でも紹介した駿溪さんは、アフガニスタンの首都カブールに教育・職業訓練のための「希望の学校」を設立し、母国の女性たちの自立を支援している活動を報告。また、東京米山友愛RCの初代会長を務める楊さんは、カウンセラーとの絆や、学友仲間らとともに新クラブ設立を目指した経緯や今後の抱負を語りました。2人の報告に、会場からは惜しみない拍手が送られ、「感謝や恩返しといった言葉が聞かれなくなったこのご時世に、留学生だったお二人から、恩返しの言葉と行動を聞かせてもらい、感動した」などの感想が聞かれました。

3 10月は米山月間です！

米山奨学事業を1人でも多くのロータリアンにご理解いただくためには、**奨学生・学友の声**を直接お聞きいただくことが一番ですが、そのほかにも下記の資料をお使いいただけます。

- ① **映像で！** → ホームページから視聴できます。ご要望があればDVDをお送りします
 - 駐日韓国大使として活躍する米山学友、権哲賢氏特別インタビュー (14分)
 - 学友の活躍を紹介「心つないで、世界へ」 (15分)
 - 事業概要「すばらしい贈り物」 (22分) ほか

② パワーポイントでプレゼン！

→ ホームページからダウンロードできます。説明者用メモ付き。

③ 新ポスター

→ ガバナー事務所宛てに送付。在庫ある限りクラブからも注文可能

④ 新バナースタンド → 巻き取り式でコンパクト収納。8,000円。

注文から1週間ほどで納品できます。

また、『ロータリーの友』10月号“よねやまだより”では、米山月間特集として、7月に上海で開催された「中国学友会総会・懇親会」の報告記事のほか、学友の活躍紹介、地区別寄付状況などの情報を掲載しています。ぜひご覧ください。



2010年度ポスター

4 台湾学友会の日本人支援奨学金、第2期生決定

台湾米山学友会（正式名称：（社）中華民國扶輪米山会）が日本のロータリーへの恩返しとして始めた「日本人若手研究者奨学金」は今年2年目に入り、9月から新しい奨学生を迎えました。

第2期奨学生に選ばれたのは、国立台湾師範大学大学院に留学中で、中国語教育を専攻する笹川優子さんです。笹川さんには1年間、台湾学友会から毎月25,000台湾ドルが支給されるほか、学友会メンバーがカウンセラーとなって、台湾での留学生生活を物心両面で支えます。



許理事長から奨学金を授与される笹川さん(右)

9月25日、台湾学友会の許國文理事長（第3490地区バストガバナー）から奨学金を授与された笹川さんは、奨学生に選ばれた気持ちを次のように語ってくれました。「私が日本の大学に在学中の頃、台湾、中国などから来た多くの留学生の友人がロータリー米山記念奨学金の支援を受け勉学に励んでいたのが深く印象に残っています。今回、私も扶輪米山会奨学生として皆さまに温かく迎えていただき、とても感謝しています。台湾での長い留学生活は充実と困難の連続ですが、今年は奨学生としての自覚を持ち、

これまで以上に勉学・研究に力を注いでいきたいです。これからの1年間、扶輪米山会の皆さまとの交流を通じて、台湾と日本の発展に貢献していきたいと思います」

5 日中関係の悪化に奨学生・学友たちは……

尖閣諸島沖の中国漁船衝突事故をきっかけに、日中関係の悪化が報じられています。この事態に胸を痛める中国出身の米山奨学生・学友たちの声を紹介します。

5年前に反日デモが問題になったとき、新聞への投書で「留学生として日本の素晴らしい一面を中国人に伝えていきたい」と語った湯伊心さん（2005-07 / 横浜ベイRC）は、「中国は世界の人々から敬遠される国ではなく、愛される国になって欲しい。ロータリアンから学んだ草の根交流は、たとえ国家間に亀裂が生じようとも決して影響を受けません。私たち米山奨学生・学友は、ロータリアンとの関わりを通じて、何か行動することができるはず」と、語ります。

先日、第2800地区（山形県）の地区大会で特別講演を行った張旭梅さん（2005-06 / 東京広尾RC）は当日を振り返って、「こんな時期に、中国人学友である私の話など聞いてくれるのだろうか…と不安でした。話し終わった後、“中国のことを嫌わないでください！私は中日友好を心から願っています”という思いで胸がいっぱいになりました」と、言います。張さんの講演を聞いた多くのロータリアンが涙を流し、会場にいた中国出身の米山奨学生たちも立ち上がって拍手を送ったそうです。



第2800地区大会で語る張さん

現役奨学生も複雑な気持ちで例会に参加しています。金静海さん（2010-11 / 横浜瀬谷RC）は、「肩身の狭い思いで座っていたら、世話クラブの皆さんが“国同士の出来事は金さんとは関係がないのだから心配しないで大丈夫”と、普段と変わらぬ温かさで励ましてくれ、どれほど気持ちが救われたかわかりません」と、嬉しい体験を話してくれました。

重要なお知らせ

普通寄付金についての確定申告用領収書の申請期限は 2010年10月31日（日） です。ご希望のクラブはお早めに申請くださいますようお願いいたします。詳細は当会ホームページをご覧ください。